

8 教育研究公開シンポジウムー学士課程教育の構成と体系化
研究代表者 頼本 維樹 (研究企画開発部 部長)

①研究の趣旨，ねらい

本研究所の研究成果を教育現場をはじめとして広く普及し、教育指導法の改善や教員の資質向上などに役立てていただくという趣旨により、平成2年度から実施しているものである。

②研究成果の概要

○平成20年度は「学士課程教育の構成と体系化」をテーマとして、8月に文部科学省講堂で実施した。

○主なプログラム内容は次のとおり。

第一部 基調報告

久保 公人 (文部科学省大臣官房審議官／高等教育局担当)

第二部 特別講演 「大学の教育力～変革の可能性～」

金子 元久 (東京大学大学院 教育学研究科長)

第三部 パネルディスカッション「学士課程教育をどう具体化するか」

報告1 「初年次教育の広がり」と学士課程教育」

川島 啓二 (国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官)

報告2 「カリキュラム改革と学習目標の明示～ I C Uの事例から」

日比谷潤子 (国際基督教大学 学務副学長)

報告3 「学士課程における学習成果のアセスメント」

川嶋太津雄 (神戸大学 大学教育推進機構教授)

ディスカッション

コーディネーター

塚原 修一 (国立教育政策研究所 高等教育研究部長)

パネリスト

金子元久、川島啓二、日比谷潤子、川嶋太津夫

○本研究所においては、平成19年12月に国公立大学全ての学部を対象として「大学における初年次教育に関する調査」を実施するなど、大学教育の改善に関する様々な研究に取り組んでいる。本シンポジウムではその研究成果の紹介も行いながら、学士課程教育の入口、プロセス、評価の面からの報告・議論が行われた。

③中期目標との関連性

○中期目標においては、「冊子の発行や会議・セミナーの開催等を通じて、教育関係者や研究者に対して研究成果の還元を図るとともに、本研究所の活動内容等について広く国民の理解を得るための広報活動を推進する」と記載されている。

○シンポジウム当日は、大学関係者など約600名が参加し、本研究所の研究成果を関係機関に広く普及するという目的は概ね達成された。

④今後の研究予定

○平成21年度は、高等学校教育改革をテーマとして8月に実施する予定。

⑤本研究の研究報告書

○毎年、シンポジウムの記録を報告書として作成しており、本報告書については高等教育関係機関等に送付するとともに、本研究所主催の関連会議等において配布し、ホームページでも公開している。

<http://www.nier.go.jp/kyoutsu2/SINPO.HTM>